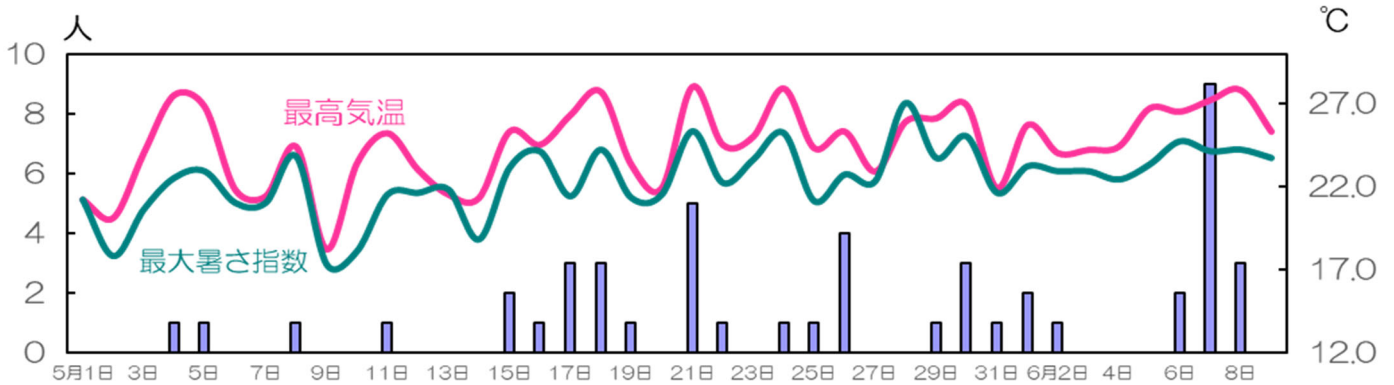


熱中症情報

<搬送数>

令和6年4月29日～6月9日までの搬送数（消防局データを使用）は、計48人（4月0人、5月31人、6月17人）でした。6月7日は、搬送数が9人/日と、期間内で最多を記録しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。



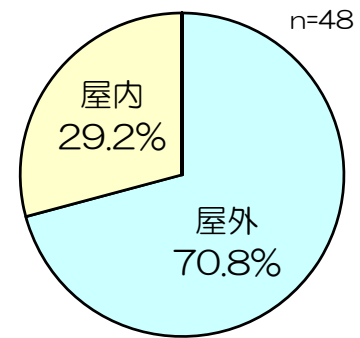
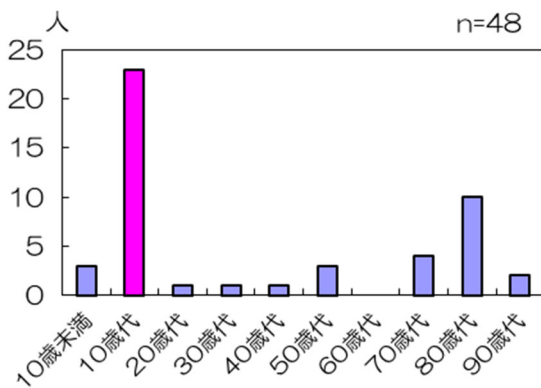
暑さ指数とは? 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

<年齢別>

10歳代が23人（47.9%）で最も多く、次が80歳代で10人（20.8%）でした。

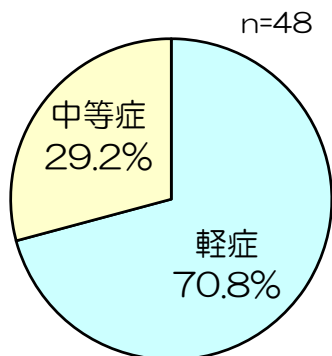
<発生場所>

屋外70.8%、屋内29.2%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症70.8%、中等症29.2%でした。少年に比べ、成人以上で中等症の割合が高い傾向が見られました。



年齢別	軽症 (%)	中等症 (%)
乳幼児 (0～6歳) n=1	100.0	
少年 (7～17歳) n=23	91.3	8.7
成人 (18～64歳) n=8	50.0	50.0
高齢者 (65歳以上) n=16	50.0	50.0

*重症度の定義（横浜市熱中症情報）